



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (3月16日～18日)

1. 付加価値税の引き上げ (16日付シャルグ紙)

イラン国税庁は、来年度 [ヒジュラ太陽暦 (イラン暦) 1392 年 (2013 年 3 月 21 日～2014 年 3 月 20 日)] より、付加価値税 (VAT) を現在の 5% から 6% に引き上げると発表した。これは、法令および第 5 次五カ年計画の中で、年間 1% ずつ上昇させると定められているもの。経済活動および商取引を行う全ての組織に課される。

2. 非石油輸出額 (16日付ジョムフーリーイェ・エスラーミー紙)

イラン貿易推進機構のサーフデル次官は、制裁下にもかかわらずイランは 160 カ国と輸出入を行っているとした上で、「本年度 [ヒジュラ太陽暦 (イラン暦) 1391 年 (2012 年 3 月 20 日～2013 年 3 月 20 日)] の非石油輸出額は、430 億米ドルに上る見込みである。過去 11 カ月間の実績では、380 億米ドルを計上した。昨年度 [ヒジュラ太陽暦 (イラン暦) 1390 年 (2011 年 3 月 21 日～2012 年 3 月 19 日)] と比較して、微減にとどまっている」と述べた。本年度の非石油製品輸出目標額は、500 億米ドルであった。

3. 中国からの対イラン投資 (17日付シャルグ紙)

イラン・中国商工会議所会頭は、「2 年前までは、中国からの対イラン投資額は 20～30 億米ドル程度であった。しかし、そのペースは 2012 年から落ちており、2013 年現在では 4 億米ドルにとどまる」ことを明らかにした。

4. 年末の流動性シナリオ (17日付ドンヤーイェ・エグテサード紙)

ヒジュラ太陽暦 (イラン暦) 1391 年 (2012 年 3 月 20 日～2013 年 3 月 20 日) の年末の流動性シナリオとして、本紙が想定した 3 つのシナリオでは、総額 4,500～5,000 兆リヤールに上る。

- (1) 過去 10 カ月間の流動性の平均のまま推移とした場合：総額 4,578 兆リヤール。
- (2) 昨年 [ヒジュラ太陽暦 (イラン暦) 1390 年 (2011 年 3 月 21 日～2012 年 3 月 19 日)] 末の 2 カ月と同水準で推移とした場合：総額 4,653 兆リヤール。
- (3) ノウルーズ (イラン正月) 前に実施する国民に対するボーナス (現金給付) を考慮し、上記 (1) (2) に重ねた場合：総額 4,902 兆～5,413 兆リヤール。

## 5. 自動車販売市場の停滞（18日付シャルグ紙）

ノウルーズ（イラン正月）前の自動車販売市場が停滞している。例年であれば多くの消費者が自動車をノウルーズ前に購入するが、本年〔ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1391年（2012年3月20日～2013年3月20日）〕は、自動車価格が下落しているにもかかわらず、購入者がほぼ居ない状況である。この理由に関し、経済専門家らは、政府の複数の組織から発せられた通達による混乱と、（メディアによる）価格調査の結果により消費者が更なる値下げを期待し買い控えているためと見ている。

## 6. 関税基準税率の引き下げ（18日付ケイハーン紙）

サーフデル貿易推進機構次官は、関税基準税率を10%下げ、15%としたことを明らかにし、「バランスを考慮した結果、基準税率を下げるに至った。これにより、貿易が促進されることを期待したい。なお、来年度は、輸入自動車に対する関税も40%に下げる予定である」と述べた。